

きかん紙

春の合宿から

No. 23

S. 50. 4. 5

目をそらせば、大きく切り取ったすき透しの窓から、カラマツの林の小枝を順にゆすって風が渡っていくのが見える軽井沢ミュージックセミナーハウスでの春の合宿—三日間、延べ参加人員 21名 (S. 7人 A. 7人 T. 5人 B. 2人)の活動の様子を書き留めてみました。

オ一日 (3/29)

眠気を頭のすみに残しながら列車に乗り込んで上野 7時47分発。寝過ごして乗り遅れた恥しい人もいます。(罰金 いくらでしょう?)

中軽井沢の駅から宿泊先の寮長さんの運転するマイクロバスに乗って、11時着。昼食・休憩の後、発唱曲で喉を潤してから、「旅」の4、なきさ歩めば、2. 行こうふたたびのパート練習と合わせ、夜は、女性合唱、男性合唱のそれぞれの練習、及び、今回の合宿の新趣向、小人数のグループでの合唱発表のためにグループ毎に別れて歌の相談と、時を過ごしました。

寮長さんから、熊や野犬が出没すると伺って、ガラス窓に顔をくっつけて「熊が来て来ないかな。」と、夜の闇を見つめていた無邪気な人もいました。

オ二日 (3/30)

夜来の雨が道を黒く染め直して、空は青一色。でも気温はさがる、遠くの雪雲から強い風に吹き飛ばされて舞いこんだのか、青い空から白いものがちらほらと、奇妙な工合です。

午前中、「風と花粉」のII春がそこまでをパート練習。「音がとれない、どうしよう。」と弱っている内に時間がたつて、合わせに臨めば、楽の定音とれず不協音を鳴らすばかり。気分悪く、「旅」を歌って、少し気分を直しました。午後の後半は、グループ毎にそれぞれ部屋に籠って、秘中の秘? で合唱練習をしました。^{*}

※特別献立というすきやきを食べたあとは、8時から、レクレーションと呼び物のグループ合唱の発表会。ピアノ伴奏が目立って良かったり、愛敬ある？振り付けをしたり、それぞれ健闘していましたが、合唱曲として聞いたのは、オケグループの「青い子守歌」で好評でした。女性合唱男性合唱の発表とひき続いた後、会場は、寮長さんをただ一人の観客に迎えて、夜のコンサートに一転。「すばらしいね、楽しんで好きでやっているのを聞くのは気持ちがいいね。」と惜しみなく拍手喝采していただきました。

最後の晩ということで、話かけずんで、笑い疲れて寝入った人もいました。

才三日 (3/31)

前日の「風と花粉」の皿は、パート練習で特訓？した努力の甲斐あってか、昨日に比べて曲になってきた感じ、でも前途多難を思わせず、Vの風の杖もさりと歌い合わせてみました。練習の途中寮長さんがカセットを持ち込んで教曲録音、「信濃の杖」を珍しくソプラノの音が下からず歌い納めて、「緊張して歌っているんだもの。気をぬいていたさっきの調子と違うんだから。」と指揮者にぼやかれた程、気持ちよく歌えた出来栄は、…と期待すれば、外のスピーカーから聞えてきた我々の歌声—似ても似つかぬ!? 午後は2時半まで合宿で練習した曲の総さらい。帰りは、陽気な寮長さんお気に入りの「汽車ホイホイ」を歌って、汽車ならぬマイワロバスを走らせて、中軽井沢駅へと向かいました。雪を残した浅間の山々が、くもりと大きく青空に現われていました。

「皆と親しくなれてよかった。1つの曲に時間をかけて練習できるので良いと思う。」「休憩時間が多い、学生時代の合宿の方が厳しく充実していた。」合宿に初めて参加した方の感想です。充実した時間が少なかったという声は、大切に聞かなくては、いけませんね。

エピソードの草々は「ワコミ」にゆずります。

最後に合宿生の吉村さん、猪原さん、本間に吐苦言様でした。